関東内陸地域における広域的観光活性化計画（事業区分：広域連携）

1. 地域の現状と課題

【現状】

長野県、栃木県、群馬県は巨大な観光需要を抱える首都圏の周縁部に位置している。関越道、上信越道、北関東道から観光地へのアクセスを強化するとともに、民間と連携した観光PRや自然環境保護活動に広域で取り組むことにより、世界遺産等の歴史的文化遺産や豊かな自然環境が有機的に連携した広域的な観光活性化が図られる。

【整備方針】

①拠点施設へのアクセス時間を短縮させ、周遊効率性を高める
②拠点施設やそのアクセスルートの安全性を高め、災害や事故等によるリスクを低下
③基幹事業と一体となってその効果を一層高める広報活動、調査を展開する

2. 計画の目標

北関東自動車道や上信越自動車道など、本地域を広域にわたって東西に結ぶ高規格道路等の整備を契機に、海外との競争にも勝ち抜く魅力ある各県の観光拠点へのアクセス性を高める基盤を整備し、関東内陸地域の広域的な観光活性化を図る。

3. 事業の内容

【計画の期間】 平成22年度～平成24年度（3年間）
【事業実施主体】 長野県

【計画の成果目標】

計画の成果目標	H20（現況値）	H24（目標値）
長野県計画地区内（北信濃・東信州地域）・群馬県全域・栃木県計画地区内（足利市・佐野市・日光市）の観光客の総計	1億2,895万人	1億4,415万人（11.7%増）
長野県内（北信濃・東信州地域）の観光客数	4,348万人	5,000万人（15.0%増）

【事業の主な内容】

基幹事業　：整備方針①　道路拡幅11箇所、バイパス整備2箇所
　　整備方針②　道路拡幅　2箇所
関連事業　：0件
効果促進事業：0件

【箇所数と事業費】

	県	市町村	計
基幹事業	15箇所　21.65億円	－	15箇所　21.65億円
関連社会資本整備事業	－	－	－
効果促進事業	－	－	－
計	15箇所　21.65億円	－	15箇所　21.65億円

※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

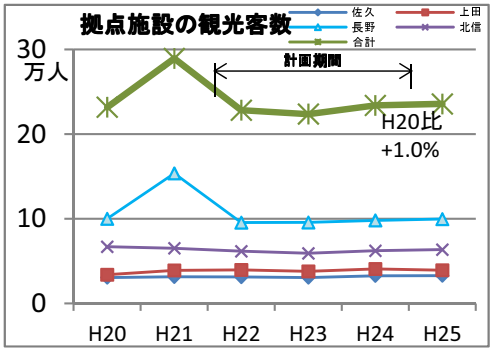
4. 事後評価の結果

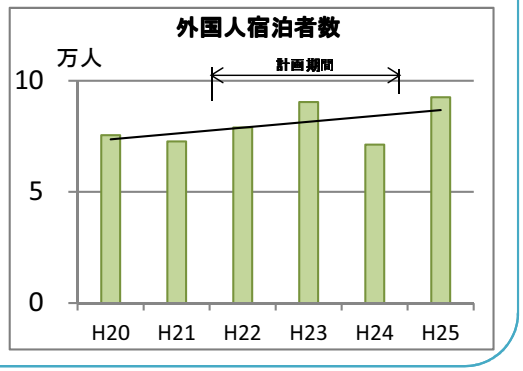
【目標値の達成状況】

計画の成果目標	H24（目標値）	H24（実績値）
長野県計画地区内（北信濃・東信州地域）・群馬県全域・栃木県計画地区内（足利市・佐野市・日光市）の観光客の総計	1億4,415万人（11.7%増）	1億2,466万人（3.3%減）
長野県内（北信濃・東信州地域）の観光客数	5,000万人（15.0%増）	4,293万人（1.3%減）

■事業効果の発現状況

- 観光地へのアクセスを強化する道路整備を行った結果、長野県内の観光客数は平成23年度から25年度にかけて増加傾向にあり、広域的な観光の活性化に寄与したものと評価できる。
- 計画地区内における拠点施設の観光客数は、1.0%の増加がみられ、道路拡幅により安全で円滑な通行が確保された結果、観光振興に寄与したものと評価できる。
- 道路改築が6箇所完成供用、3箇所部分供用し、改良率が向上した。（2.8km、0.1%）





5. 評価と今後の方針

- 国内景気の後退や東日本大震災の影響があり、目標値に達していないが、道路整備によりアクセス性や安全性が向上した結果、近年、長野県における計画地区内の観光施設の観光客数は増加傾向がみられ、広域的な観光活性化に寄与したものと評価できる。
- 次期計画の策定にあたっては、目標値の達成状況等を検証し、整備方針に反映させていく。

関東内陸地域における広域的観光活性化計画（事業区分：広域連携）

整備効果事例

事例①　道路改築事業
（主）別所丸子線　上田市　中丸子

■整備効果

整備前

道幅が狭く、
車両のすれ違いが困難

整備後

道路拡幅により、別所温泉
へのアクセス性が向上

事例②　道路改築事業
（主）川上佐久線　佐久穂町　高岩

■整備効果

整備前

道幅が狭く、車両の
すれ違いが不可

整備後

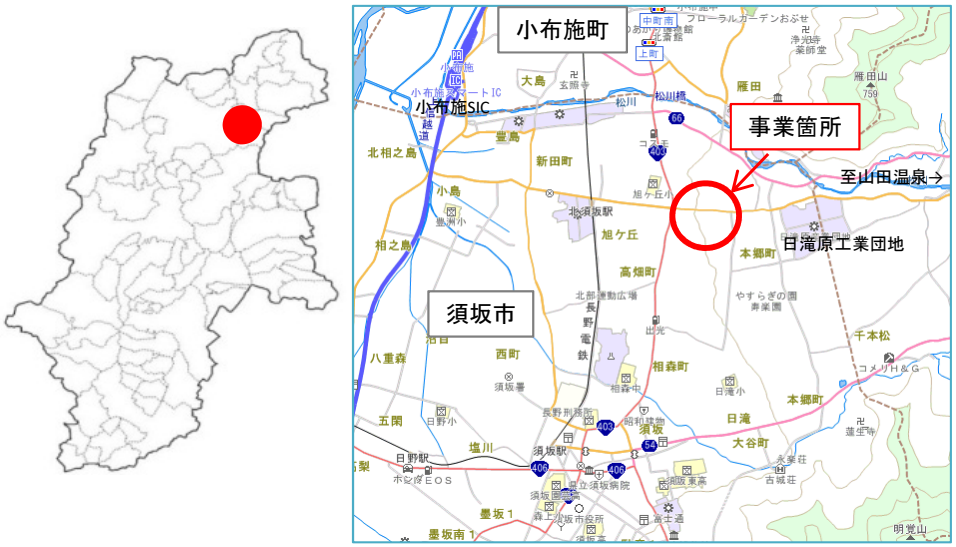
道路拡幅により安全で
円滑な通行を確保

関東内陸地域における広域的観光活性化計画（事業区分：広域連携）

整備効果事例

事例③　道路改築事業
（一）相之島高山線　須坂市　日滝原

■位置図



■整備効果

整備前

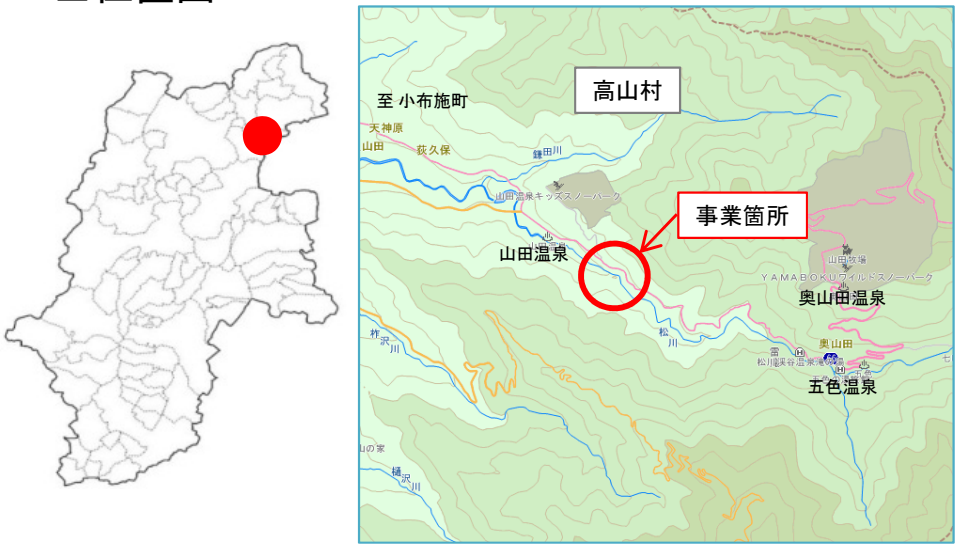
道幅が狭く
大型車とのすれ違いが困難

整備後

道路拡幅により、安全で
円滑な通行を確保

事例④　道路改築事業
（主）豊野南志賀公園線　高山村　温泉～五色

■位置図



■整備効果

整備前

車道が狭く、観光地への
通行に支障

整備後

道路拡幅により、温泉地への
アクセス性が向上